

3：よくできている、2：おおよそできている、1：あまりできていない、0：まったくできていない
評価できない・・・空欄

		児童評価	保護者評価	教職員評価	教職員評価の理由	
主体的・対話的で深い学び	支持的風土を育てる学級・学年集団づくりの実践	2.5	2.1	2.3	<ul style="list-style-type: none"> 「主体的・対話的で深い学び」の実現のため、講師を招聘するなど校内研を充実させ、授業改善を更に進めていく必要がある。 GIGAスクール構想に伴いICT機器が充実し、試行錯誤しながらではあるが、普段の授業でも積極的な活用を意識している。 	
	協同する体験・伝え合う喜び・コミュニケーション能力の育成を図る授業の工夫改善（ICTの活用含む）	2.5	2.2	2.3		
	主体的・対話的で深い学びを追究する授業研究や研修会			2.0		
道徳教育の充実	生命を尊重する心やいじめを許さない態度などの道徳的実践力を育てる活動の実施	2.9	2.2	2.1	<ul style="list-style-type: none"> 道徳科の中でも、人権に関すること、いじめに関することに力を入れて指導に当たっている。「ありがとうの木」のように委員会活動での取組もよかった。 学習参観自体が少なかったものの、どのクラスも道徳の授業を参観日に公開できたことはよかった。 	
	道徳科の授業・評価に関する研究や資料の開発・整備・交流			2.1		
	保護者等への道徳科の授業公開			2.2		
体力づくり	たくましい心と体を育てる魅力ある授業の工夫改善	2.5	2.0	2.2	<ul style="list-style-type: none"> コロナ禍ではあるものの、運動会やマイペースランニングなど学校全体で取り組めた。しかし、休み時間も含め活動が制限されることで、児童の体力の低下につながることを心配している。 委員会活動による児童の自発的な取組で体力づくりのイベントが計画されていることはよかった。 	
	体力づくりを推進する運動実践			2.0		
	体を動かす気持ちよさを体験させ、進んで体を動かそうとする意欲の育成	2.5	2.1	2.1		
指導改善（組織的・計画的）	学力向上を目指した指導体制・指導方法の工夫改善	2.6	2.1	2.0	<ul style="list-style-type: none"> 幅広い年齢層の教員がいるので、全体的な指導力向上のため、OJTを充実させる機会を増やす。 定時退勤日をはっきりさせる等、働き方改革の取組を進める。 	
	教職員の指導力、情報活用能力、及び組織的な教育力の向上			2.2		
	働き方改革の取組と教育活動の質の改善			2.0		
育ちと学びを支える連携	① 家庭・地域との連携・協働	保護者の子育てに対する積極的な支援			2.0	<ul style="list-style-type: none"> コロナ禍の影響で保護者や地域ボランティアに参加してもらいにくい状況ではあるものの、保健室や生活科・家庭科の授業、スクール農園において協力をいただくことができた。特に、登下校の見守りボランティアの方々の協力は非常にありがたい。 感染症の収まりつつあった時期の行事の有無や実施方法については、賛否両論あり、すべての保護者の理解を得るのは難しい。
		保護者・地域との交流や情報発信、参観、懇談会、研修会の実施、地域人材の活用	2.6	2.3	2.0	
		防災教育の推進、感染症対策の推進等、安心・安全な学校づくり	2.7	2.2	2.2	
	② 保幼小中の連携	子どもの校種間交流や教員の出前授業			1.8	
		校種間の授業公開や合同研修会			1.4	
		保幼小中の接続期の教育課程の編成等校種間のカリキュラム研究			1.6	
組織的体制の充実	① 生徒指導体制の充実	いじめや暴力行為、不登校等生徒指導上の諸課題の早期発見、日常的な予防指導	2.6	2.1	1.9	<ul style="list-style-type: none"> 些細なことであっても、いじめではないかと疑いを持ち、早い段階から対応できている。また、生徒指導主任・子ども支援コーディネーター等の相談体制や複数対応できる体制が整っている。 不登校傾向の児童について、保護者との連絡を密に取り合い、児童の様子について共通理解を図っている。
		生徒指導・教育相談体制の確立と組織的な推進			2.5	
		家庭・地域・関係機関との連携による指導			2.4	
	② 特別支援教育の充実	個別の教育支援計画及び個別の指導計画の作成と活用			2.1	
		組織的・計画的な特別支援教育体制の確立			2.2	
		関係機関と連携した相談体制の充実			2.2	
学校満足度	児童生徒の学校満足度	2.6	2.2	2.1	<ul style="list-style-type: none"> 児童にとって、コロナ禍で制限されることが多くストレスもあるだろうが、おおむね楽しく学校生活を過ごしていると感じている。 	

学校関係者評価		評価の理由
学校関係者評価	2.8	<ul style="list-style-type: none"> 子どもたちは学んで来たことを生き生きと話している。 ICTの活用の取組がよい。 授業も以前とは随分と変化し、タブレットを使った授業を参観したが、その活用方法は現在研修中のようだった。 タブレット教育が入り先生自身のアップデートは大変な努力が必要だ。 個性豊かな子どもたちそれぞれ対応しつつクラスをまとめていくパワーに、ただただ感謝です。 学習は主体的に学べるものになってきているように感じた。 学校の菜園活動を通して、子どもの礼儀正しく挨拶をきちんとする点を評価します。家庭内だけでは身に付けるのは難しいですが、学校や幼稚園でしっかりと礼儀・挨拶について指導されていると感じる。 「主体的・対話的で深い学び」を実現するには、教員の増加やクラスの人数を減らす等、もっと根本的なところから改善する必要があるように思う。 ICT機器の積極的な活用をお願いしたい。
	2.5	<ul style="list-style-type: none"> 「いじめを許さない」という学校としての姿勢、人権に関する取組が、しっかり行われている。 「ありがとうの木」はとても良い。 人権学習の一つで、人権標語に取り組んだ作品は、児童の学習の成果が現れていた。 いじめ問題は難しいが、常に意識して取り組み、児童の関わりが大切だ。 児童の評価が高評価なことが嬉しい。先生方の普段の子どもたちへの何気ない会話や対話、そして熱心な指導から出たものだと思う。 道徳的な授業は十分行われているように思うが、日常生活に生かされているのか疑問に思うことがあり課題に感じる。 人権に関することは、大切なテーマなので、子どもたちの実態に合わせて学びとなるように期待する。 子どもがまだ低学年だが、全部理解しているかというところではない。 廊下からの参観では授業の内容が聞こえにくかった。 児童の実態に即した道徳の授業を図ってほしい。（人権尊重、平等、人間の尊厳）
	2.7	<ul style="list-style-type: none"> 工夫して取り組んでいる。 コロナ禍の中、運動会やマイペースランニングを開催していただいたのはとてもうれしかった。子どもたちもモチベーションにもつながっていたと思う。 運動会やマイペースランニングには頑張って取り組んでいたのがよかった。制限がある中で、児童が考えて動いたことは素晴らしいです。 運動会が実施されたことは、子どもにとってこの年は2度とこないものなので、児童も保護者も喜んでいてと思う。 本来幼児期に全身を使って遊ぶことで身体を動かす楽しさを味わい、喜び、もっと!となるのだけれども、なぜ、体育になると「しんどい」「めんどくさい」となるのかと思う。たぶんやらされている、意志とは違うという気持ちが大変なのだろうと感じる。 コロナ禍で工夫を要するが、計画・実践されていくことに期待する。
	2.6	<ul style="list-style-type: none"> 工夫して取り組んでいる。 掲示版の工夫が子どもたちによく浸透している。子どもが「学校に貼ってあるから覚えてるねん」などと話すことがある。 タブレットの導入は研究しながら進化していくと思う。 フールの見守りをした時、先生の指導がマニュアル化され、児童にも指導が行きわたっていた。若い先生になって指導に迷わず取り組めるのは良いが、マニュアル人間にはなってほしくない。 楽しいイベントで楽しめるのは素晴らしいと思うが、日々の生活に活かせるような指導に期待する。 先生方が、子どものために、日々奮闘して下さる姿には本当に頭が下がる。先生方の心と身体を大切に無理のない中でお願いします。 教職員の指導力に関しては個人の差を強く感じる。授業が分かりやすい先生のやり方を真似する等、統一してもらえたらと思う。 児童を見る眼・観察力をしっかりつけてほしいと求める。
	2.8	<ul style="list-style-type: none"> 地域ボランティアをうまく活用されている。 児童クラブを含め、様々な地域の方との協働体制が確立していると思う。 (ボランティアとして) スクール農園の活動はコロナ禍ではあるが、楽しみながら活動できた。 スクールガードとして安全な登校を見守っているが、低学年から高学年まで朝の挨拶できるようになった。 スクール菜園に参加し、校長先生の地域に対する考えがよく伝わってきた。児童とのかわりも楽しかった。命の大切さが伝わればいいと思う。 対策をしながら運動会や参観日を開催していただきありがとうございます。 里東は地域や保護者の方々のボランティアが多いように感じる。子どもたちにとって皆に見守られていることが実感できるとも良いと思う。 保護者の子育てについての悩み、支援が十分にできているか、少し不安に感じる。 ボランティアに関して、時々同じ方がいろんなボランティアに参加して、負担にならないか心配になる。幅広い方に参加してほしい。
	2.3	<ul style="list-style-type: none"> 直接交流は難しいが、仰木サミットやあいさつ運動を共通で行うなどの取組はできた。 仰木サミットが今年も再開され、頑張っている中学生が身近に感じられる機会なので続けてほしい。 コロナ禍で難しいところはあるが、5・5交流は就学への不安が安心に変わる児童たちのメリットもあるが、5年生の子どもたちが高学年になった時の自信や責任、小さな子どもたちを守ろうとする思いなどを育てる大切なものだと感じる。引き続き大切に実施してほしい。 コロナ禍の中、交流が少しだけでもできる方法を工夫していただけたら良いと思う。 コロナ禍で難しい状況だが、今できる連携を深めていきたい。
	2.7	<ul style="list-style-type: none"> 生徒指導主任、子ども支援コーディネーターを中心に組織対応できている。 子どもたちと向き合い、対応されていると感じる。 公園は時間によって園児・小学生・中学生と時間によって違うが、もめごと無く仲良く過ごしている。 いろいろな場面でも相手との立場に立って考えることが大切だが、まず、本人が自分のことを理解し、すべてのことを認める力がないと相手の立場に立って対応できない。「いじめはためだ」も必要だが、子ども自己肯定感を高める働きかけや取組をどんどん行ってほしいと思う。 登下校時にあいさつをするが、どこか不自然である。 不登校児の保護者から話を聞く機会があり、対応に疑問を感じる。もっと力強い対応を望みます。
	2.8	<ul style="list-style-type: none"> 子どもたちの育ちを感じる。 中学校と特別支援に関する交流も少しずつではあるができています。 特別支援教育に関しては大変よくしてもらっていると感じる。 特別支援学級の子供たちが菜園での収穫活動に参加し、その活動を通して植物や野菜、地中で生活する、虫やミミズにも関心を持ってほしい。 スクール菜園で関わった子どもたちはどの子もいい顔をしていた。玉ねぎを売る姿が見たかった。 特別支援学級へ行くクラスメイトの説明が他の児童にきちんとされているのが気になる。園児の成長が、思いなどを理解することで、誤解から生じる心ない言葉や偏見で傷つくことが減るのではないかと感じる。無知ほど人を傷つけることはものはありません。個性を認める心を持ってほしいと思う。 スクールカウンセラーの常置を強く望む。
	2.8	<ul style="list-style-type: none"> 教職員の努力に感謝します。 制限された生活の中で、児童は生き生きと学校生活を過ごしている様子が見えたと感じた。 制限がある中、子どもたちなりにいろいろ考えながら、友達と学校生活を楽しく過ごしていると感じる。 学校での生活を子どもたちは楽しんでいる。悩んでも友達に支えられ成長していると感じる。 普段は「学校ってめんどくさい」と言っていた子どもが、休校を経験して「やっぱり学校っていいな」と感じた子どもは少なくないと思う。 コロナ対策で、より先生方の負担は重くなったことではあるが、これからも保護者と共に子どもたちの笑顔を守って頂くようお願いいたします。 エティフルパワーが自治会も入れて動き出したことは校長先生のおかげで、素晴らしいことです。 全体的にみると楽しく学校に通っている子が多く思うが、そうでない子もいることを見聞きするので、関係機関と協力し、サポートしてもらいたい。